京葉鐵鋼埠頭の「9号倉庫」
天井クレーン増設、2基体制に
安定荷役へバックアップ強化



ヨドコウや日本製鉄などが出資する港湾運送・倉庫業の京葉鐵鋼埠頭（千葉県市川市、社長・北村宗一氏）は、めっき・カラー鋼板などを保管する9号倉庫に天井クレーン1基＝写真＝を増設し、10月から稼働を開始した。倉庫内の天井クレーンを2基体制とし、故障やメンテナンスに伴う荷役機能の停止リスクを低減。設備の老朽化対策と予防保全の観点から、安定操業に向けたバックアップ機能を整え、物流インフラとしての競争力を高める。

増設したのは、オールインバーター制御を備える住友重機械搬送システム製の屋内型クラブトロリ式天井走行クレーン（定格荷重20㌧）。これまでは1基で荷役作業を担っていたが、突発的な故障や修理が発生した場合でも、もう1基で作業を継続できる体制を構築した。

投資額は付帯設備を含め9千万円。既存クレーンの設置から43年が経過する中、同時期・同型の別のクレーンでサドル部分に亀裂を確認して緊急で更新した過去の事例を踏まえ、安全確保のため早期の措置が必要と判断した。

同社は1968年の創業以来、鉄鋼専用埠頭として円滑な入出庫・保管体制を維持してきた。足元では、将来にわたる「安全・安定・効率的」な操業を目指し、中長期的な競争力強化に向けた投資を進めており、昨年4月には屋外ホットコイル置場のクレーン更新で置場面積と能力を拡張。岸壁の鋼矢板（全長約300㍍）調査で一部に腐食を確認したため、今年度から被覆修復工事を開始するほか、岸壁クレーンの更新も検討を進めていく。

北村社長は「製品、半製品を運ぶ拠点としての機能を高めるため、これからも必要な設備投資を着実に進めていく」とし、髙橋徹常務は「重量物を扱う物流の現場においても人手不足に対応できる環境を整えていきたい」と話している。